

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		イーホクラボ		公表日		2025年 1月 9日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係が適切であるか。	○		個別スペース、集団スペースを分けて、個別療育を行う場合も、集中して取り組めるようにしている。座卓エリアを含めゆったりとしたスペースの確保を行っている。	児童や職員が密集した状態にならないように、スペースの確保に留意しながら療育を進めていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		提供時間においては、利用児童の把握をしっかりと行っている。職員の配置数は、県の基準に適合するよう十分配置をしている。	不定期で利用してくれる児童に対して、補助や支援が足りるように配慮していきたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		空間をパーティションで仕切り、周囲の雑音が気になってしまう児童に対しては、影響をできる限り減らせるよう工夫している。	療育中に椅子が動くため、集中できない場合があるので、動かない椅子を用意する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃の際、共有する机や机やすなどの消毒も行い、毎日清潔な状態を保つようしている。また児童の入れ替わりがある場合は、共有分の消毒を徹底している。	感染予防の視点に立ち、換気や消毒を徹底していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		場所について職員間で情報共有している。体調不良の児童には静養スペースを準備し、個別で話し合いが必要な場合は仕切りで区切られたスペースを提供している。	個別スペースを利用したい児童に対する配慮を常に意識していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルについては、新人職員に対しても研修を行っている。支援課題を達成できるようにPDCAサイクルに留意した支援を行っている。	引き続き、新人指導を行い、社内でPDCAサイクルの進め方について周知徹底に努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年アンケートを行い、保護者様からいただいた意見を職員間で共有し、改善につなげるよう努めている。また、交流会などの開催により、保護者様の意見をうかがう機会を設けている。	保護者様の貴重なご意見を、療育活動や業務運営に反映していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		週に一回必ず職員会議を行い、日ごろの支援や、業務面での問題を吸い上げることのできるような機会を設けている。	引き続き、職員会議を通じ、課題に関する業務改善を行っていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	今後検討していく。	今後検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修の参加を推奨し、社内でも様々な研修を計画に基づいて行っている。	教材に関する研修を行い、どの職員が療育を行っても同じ質を保てるようにする。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		R6.4~作成し、ホームページに公表している。県への届け出も行っている。	公表済み。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	○		職員間でアセスメント会議を行い、児童への聞き取り、保護者様とのモニタリング面談を経て、細かくニーズを取り入れることができるようにしている。	今後も、ニーズの聞き取りを大切に、ニーズを反映した計画作成に留意していく。	
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		利用児童ごとに作成されている個別支援計画を、全職員が必ず目を通し、利用児童のニーズに対して、どのように支援していきたいか、意見を述べる機会を必ず設けている。	全職員が共通認識の下で療育を進めることができるように引き続き留意していく。	
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		全員で計画の確認を行っているため、共通認識の下で療育を進めることができている。	全職員が共通認識の下で療育を進めることができるように引き続き留意していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		すべての利用児童に対して、標準化されたツール（レイの図、サリーとアン、MIM、ワーキングメモリ課題など）を用いてアセスメントを行っている。また、日々の行動観察についても綿密にアセスメントを行っている。	引き続き同様の手法でアセスメントを行っていく。またよりよい方法があればその手法を取り入れていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿って、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」の項目について個別支援計画に内容を盛り込み、それぞれにおいて具体的な支援内容が設定されている。また、その内容については保護者様に説明を行っている。	何か不明な点があれば、丁寧な説明を心掛け、支援するにあたって具体的な内容を提供できるように心掛けていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		集団スキルの取り組み前には、主導する指導員が中心となって、どのような内容を行うか、情報共有したり、利用児童によって取り組むプログラム内容を修正したりして、臨機応変に担当間で情報共有している。	常勤、非常勤職員を問わず、きめこまやかな情報共有を心掛けていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		読むスキルなどの集団スキルは、2年1クールと設定してある程度固定化しながらも、その日の参加児童に応じて長期で利用しているメンバーには飽きが来ないように課題の変更を行っている。	利用児童に応じて、柔軟に対応できるように職員が常日頃から心掛けていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	○		コミュニケーション面や、巧緻性の課題がある利用児童に対しては、個別療育だけではなく小集団療育を組み合わせ、楽しくみんなで取り組めるように職員間で相談し、療育を進めている。	引き続き、利用児童の状況に応じて、適宜支援方法を組み合わせて行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		集団療育の前には、利用児の情報を共有している。メインの指導員とサブの指導員の間でどのように取り組むか、事前に相談して進めている。	引き続き、チームで共有して連携し、最適な支援活動を行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		次に向けて支援の改善や、利用児童とのかかわりの中でよかった点は、終わってから必ず情報共有するようにしている。	利用児に課題が適していなかったり、何か気になることがあったりする時は、職員間でもっと密に情報を共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		その日の取り組みの様子は、課題の項目ごとに分けてノートに記入しているため、どの職員が見ても、進捗や取り組み内容がわかるように工夫している。	引き続き現在のやり方で、どの職員が見てもわかりやすい記録を心掛けていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度、保護者様や学校などと連携して情報共有を行い、利用児童の現状に必要な課題を設定している。	引き続き、支援計画の作成日を管理し、半年に一度、必要あればもっと短期間のうちに見直しを行う。
	24	<b>【放デイのみ】</b> 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		特性を踏まえたニーズに応じた支援の提供、合理的配慮の提供、家族支援を重視すること、インクルージョンの推進などを意識した療育の提供を行っている。	適宜職員への研修も行き、支援の基本活動を軸として支援の提供を行っていく。
	25	<b>【放デイのみ】</b> こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		課題を複数準備しておき、取り組みたくない時は、自分のやりたい課題を選択できるような工夫を行っている。	利用児童が自己決定、自己選択できるような支援の在り方を引き続き行っていく。
期	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		複数の職員が関わっている場合は、事前に職員間で情報を共有し、情報の漏れがないように努めている。	情報の漏れがないよう今後も努める。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		個別支援計画策定の際、必ず保護者様に希望のあるなしを伺い、希望があれば積極的に連携する体制を整えている。	引き続き、保護者様のニーズにそって連携できる体制をとっていく。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	現在、実績はまだないが、機会があればそのような機会を設けていきたい。	現在、実績はまだないが、機会があればそのような機会を設けていきたい。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	現在実施はないが、機会があれば参加していきたい。	現在実施はないが、機会があれば参加していきたい。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		何かあればLINE等を通じて様子をお伝えする体制を整えている。送迎の際や、その月の療育をお伝えする報告書にて、様子をお伝えする形をとっている。	共通理解において、まだ不十分な面もあるかと思うので、連絡帳やLINE、お電話等で密な情報共有を行っていきたい。
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	交流会を開催し、複数のテーマから保護者様のニーズに応じた情報の提供を行っている。	交流会の開催頻度を増やし、開かれた事業所の運営を目指していきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	32				
	33				
	34				
	35				
	36				
	37	○		保護者様の希望に応じて、積極的に関係連携を行っている。学校でのトラブルや、情報をもとに計画に内容を反映している。	保護者様に対して、行事予定（年間）や、下校時刻の確認をもっと積極的に行っていきたい。
	38		○	保護者から希望があれば応じる体制を整えている。	保護者から希望があれば応じる体制を整えており、ご要望があれば対応していきたい。
	39		○	要望があれば応じる体制を整えている。	要望があれば応じる体制を整えている。
保護者への説明等	40	○		会議があれば積極的に参加している。	会議があれば積極的に参加している。
	41	○		運営規程は玄関に設置し、いつでも閲覧できるように状態にしている。支援プログラムはホームページに公開し、利用者負担等については契約時にご説明している。	細かい内容等、いつでも質問事項に答えられるようにLINE等を通じて引き続きご案内していく。
	42	○		必ず意見を聞き取る機会を設け、次回の個別支援家計画の課題設定に内容を反映している。	利用者のニーズを第一として、ニーズの実現のために最善の支援内容を提供していきたい。
	43	○		内容についてご意見がないか確認し、必ず同意を得て進めている。	内容についてご意見があれば、丁寧な説明と計画の修正を実行していく。
	44	○		家族支援サービスを利用できる旨、お知らせしており、相談内容に応じて専門の職員が対応できるように体制を整えている。	相談の機会を増やし、きめこまやかな相談体制が取れるよう、情報発信を含めたご案内を行っていく。
	45		○	保護者交流会を開催し、アットホームな雰囲気でごろごの悩みなどを話し合えるような機会を設けている。きょうだい同士については、今後検討していきたい。	きょうだい同士の交流を含め、今後機会を設けることができるよう検討していきたい。
	46	○		苦情対応の体制を整え、契約書にも記載している。また、玄関に体制に関する掲示も行っている。	苦情については、真摯な対応を心掛け、ご理解を得られるように対応していく。
	47		○	LINEのお知らせを通じて、情報発信を行っている。また、保護者様と事業所との間で、1対1でやりとりができるようなLINEツールを設けている。	引き続きLINE等を通じて情報発信を行う。
	48	○		新人研修の際も必ず情報漏洩に関する研修を行い、社外に個人情報がもれないように留意している。	新人研修や、既存の職員に対するリマインド研修を行い、情報漏洩に関する社内の意識を高めていく。
	49	○		視覚支援ツールを用いて、言葉での指示が難しい場合は、円滑にやりとりができるように工夫している。	この伝達方法で十分かどうか、常に意識し、よりスムーズに伝達できるように方法をチームで検討していく。
50		○	現在まだ実施はないが、協議会等に参加して地域の方々との連携を進めていきたい。	現在まだ実施はないが、協議会等に参加して地域の方々との連携を進めていきたい。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	51				
	51	○		家族支援サービスを利用していただき、その時々に応じた悩みについて、相談に乗れるような体制を整えている。	引き続き相談対応を行っていく。
非常時等の対応	52	○		各種マニュアルの整備を行っており、職員へは研修を通じて周知徹底を行っている。	マニュアルの変更が必要な場合は、即行い、職員へ周知徹底していく。
	53	○		自然災害および、感染症の場合に応じてBCPをそれぞれ策定し、職員への研修・訓練を行っている。	研修、訓練等は外部研修を活かし、常に最新の情報を社内共有していく。
	54	○		児童に応じてアセスメントやモニタリングを行う際、体調についての聞き取りを行っている。	引き続きアセスメントの際に留意していく。
	55		○	食品の提供は行っていない。	食品の提供は行っていない。
	56	○		安全計画を策定し、所内で掲示している。また定期的に職員に対して、研修を行っている。	安全計画に不備がないか、社内の意見をヒアリングし、最善の計画を保つ。
	57	○		玄関に掲示している。	マニュアルを変更した際も、随時最新版を掲示できるようにしておく。
	58	○		ヒヤリハット事例について誰でも閲覧が可能な状態にしてあり、毎日療育終了後にヒヤリハットについての情報を共有している。一週間に一度、職員会議の際に、その週に起きたヒヤリハットについて情報共有している。	定期的なヒヤリハットの見直しを行い、社内で起こりうる事故について常に意識を向けられるようチームで取り組む。
	59	○		虐待防止委員会主導のもと、研修を行い、知識を共有している。	職員のメンタル面や、グレーゾーンの研修棟を通じて、虐待が起こりうる状況をできる限り回避していく。
	60	○		個別支援計画に、身体拘束は行わない旨、記載している。	今後も身体拘束は行わない。